会話パートナープログラム
―留学生と日本人学生の相互理解に向けて―

松　本　久美子

1．はじめに
2．会話パートナープログラム開設の経緯
3．会話パートナープログラムの概要
　3-1　募集・登録方法
　3-2　参加者（登録者）
　3-3　活動内容・方法
　3-4　活動上の問題点
4．日本人学生の反応と活動の効果
5．まとめと今後の課題

〈キーワード〉双方向学習、ネットワーク、異文化接触場面、コミュニケーション能力

1．はじめに

近年、大学の国際化や多文化共生社会に向けて、留学生と日本人学生との接触の拡大と深化によって相互理解を促進する必要性が指摘されており、調査研究がなされるようになった。また、国立大学でも指導相談部門を担当する教官や留学生課事務室が窓口となって、留学生と日本人学生の出会いの場を提供し、相互交流を促進しようとする試みがなされている。

本稿では、その一例として、長崎大学留学生センターで実施している「日本人学生と留学生の会話パートナープログラム」（以下「会話パートナープログラム」と略す）について報告する。このプログラムは留学生と日本人学生に個人と個人の継続的な異文化接触の場を提供し、日本語を基本的な媒介言語とする活動を通して実践的な異文化コミュニケーション能力を養成し、両者の相互理解を促進することを目的としている。

本稿では、まず、会話パートナープログラムを開設するに至った経緯について述べ、次にその具体的な内容について報告する。会話パートナープログラムの有効性を検討するに当たって、今回は、日本人学生に対する質問紙調査の結果を主な資料とした。

2．会話パートナープログラム開設の経緯

このプログラムは、1998年度春期に開始された。初めは研修コース[1]に在籍する留学生を対象に日本語の会話能力を伸ばすことを主な目的として始めたプログラムで、研修コー

ス受講生で留学生センター所属の者[ii]は、その間は、制度上チューターがつかない[iii]ということも一つの理由であった。

長崎大学留学生センターでは専任教官全員が日本語教育部門と指導相談部門を兼任している。筆者は赴任以来、兼任している立場を活かしたプログラム作りを考えてきた。大学内外に留学生支援・交流のネットワークを作るのも重要な職務だと考えており、どうすれば留学生の隔離状態を変え、彼らが現在所属するコミュニティ（大学および地域社会）と直接的な接触の場を増やしていくことができるか、またそれをどうやって継続性のある相互交流に発展させていくことができるかということを課題として追ってきた。

上記の課題のうち、特に日本人学生との相互交流に関するものとして、教室内活動としては、日本語研修コースの中に「留学生と日本人学生の初級会話合同クラス」[iv]（以下「会話合同クラス」と略す）を設けた。そこでの活動の中で、留学生と日本人学生双方から、もっと一緒に活動できる場を設定して欲しいという要求があった。同じ大学で勉強していても、留学生と日本人学生が出会いお互いに交流する場は実際にはかなり少ない。日本人学生と知り合いになりたいと思っている留学生も、勉強·研究で忙しく、そのチャンスがつかめないでいる。一方、留学生と交流を持ちたいと考えている日本人学生も、どうやったら留学生と交流する機会が持てるか、わからないでいる。[v]

こうした状況の中で、筆者は、日本語クラス（教室内活動）と教室外活動を連携させ留学生のネットワーク形成をサポートしたいと考え、時間も場所も指定されず学生が自分たちのスケジュールにあわせて活動できるものとして、会話パートナープログラムを開始することにした。

3．会話パートナープログラムの概要

3-1　募集・登録方法

会話パートナーの募集は現在　①長崎大学発行の『学園だより』〔年２回発行〕、②留学生センターニュース〔年２回発行〕、③留学生センターのホームページ、に募集広告を掲載して行っている。また、口コミによる応募者も増えてきている。

登録は、プログラム担当者である筆者の研究室に参加希望者に来てもらい、直接面談の上、登録カードに必要事項を記入してもらう形で行っている。この方法はかなりの時間をとられる。留学生センター事務室に登録カードを置き、事務的に登録してもらう方法も考えたが、①登録時にプログラムの目的をより良く理解してもらい、留学生との活動が両者にとって実りあるものとする、②適切なマッチングを行う、③活動するうえで問題が生じ、担当者の介入が必要になった場合、「顔の見える」関係を作っておく、という理由で現在の方法を継続している。

日本人学生の中には、英会話の練習が目的で留学生との交流に興味を持つものも多い。[vi]また、その反対に英語ができないから留学生との交流は難しいのではないか、と考えてい

る者もかなりいる。このような学生に関しては、登録カード記入前に時間をかけて、コンサルテーションを行う必要がある。

登録以降の連絡は主に電子メールを使って行っている。

3-2 参加者（登録者）

留学生については、前述の通り、開設当初は長崎大学研修コース在籍の、チューターの配置がない留学生を対象にしていたが、学部・大学院に在籍する留学生からの要望があり、現在は長崎大学に在籍する留学生全員を対象としている。

日本人学生については、活動の中心は長崎大学の学生だが、現在長崎地域にある4大学を含めた、合計5大学の学生が会話パートナーとして登録している。

1998年4月から現在までの登録者数は、留学生81名、日本人学生75名である。日本人学生の中には開設当初から現在まで、複数の留学生のパートナーとして活動を続けているも者もいる。

3-3 活動内容・方法

会話パートナープログラムに登録された留学生と日本人学生は、マッチングが成立すると、お互いに会話のパートナーとして活動していくことになる。

会話パートナーは基本的に1：1を活動の基本としているが、これ以外に留学生1人に対して日本人学生2人、留学生2人に対して日本人学生2人というパターンもある。

クラブやサークル活動と違って、日本語を基本的な媒介言語としてコミュニケーションを行うということ以外、特に活動上の決まりや規則はない。出会いのきっかけは提供するが、その後の活動においてはパートナー同士で、自主性をもって、自由に決めていくことになる。質問や問題がある場合は、筆者にE-mailで連絡が取れるようになっているし、研究室を訪れる学生もいる。

アンケート調査の結果によると、活動のペースは1週間に1回、1.5時間から2時間ぐらいというのが平均のようである。中にはほとんど毎日会っている者もいる。場所は留学生センターのロビー、学生食堂、長崎大学国際交流会館（留学生宿舎）等が多いようだが、一緒にいろいろなところに出かけたりしている者たちもいる。

活動内容は、日本語の学習のサポートから、気軽なおしゃべり、情報・意見交換等、様々であるが、お互い忙しい中、時間をやりくりして、会話を楽しんでいるようである。中にはお互いの母語もしくは英語を教えあっているものもいる。

日本人学生に対しては、以下の点を留意事項として渡している。

〈留意事項〉

・ 会話のための場所と時間は、留学生と話し合って、お互いのスケジュールに合わせ

て自由に決めてください。

- こちらからの連絡はすべてE-mailで行います。活動の場所と時間が決まったら、メールで連絡してください。また、いろいろな理由で定期的に活動が行えなくなったときにも、連絡をお願いします。
- 活動する中で疑問や他のパートナーと共有したい情報等が出てきた場合は、会話パートナーのML(メーリングリスト)を活用することができます。参加したい人は松本に参加の申し込みをしてください。
- 留学生の会話パートナーとして活動した方には、期の最後にアンケートをお願いしています。御協力をお願いします。

3-4 活動上の問題点

日本人学生で、それ以前に留学生との個人的な会話の経験を持っていない者の場合、特に初期の段階で、相手の留学生とどのようにコミュニケーションをとったらいいのか途方に暮れたり、会話の途中で立ち往生してしまう者が高い割合で見られた。これに対しては、活動初日のための会話キッドを作成し、日本人学生に手渡すとともに、スケジュールが許すものには会話合同クラスにも参加することを勧めた。留学生との完全に自由な1対1の活動で立ち往生してしまう日本人学生にとって、会話合同クラスに参加することは、会話パートナーとして活動するうえで以下のようなメリットがある。

- 会話パートナーのような個人対個人の緊張感・不安感が軽減される。
- 他のペアの会話の様子を見ることで、会話パートナーとのコミュニケーションがうまくいかない原因が客観的に見ることができる。自分のやり方の参考にしたり、今までのやり方を振り返ったりすることができる。
- いろいろな文化圏の留学生と話すチャンスがあるため、パートナーの留学生の状況が客観的に把握できる。
- コミュニケーションに行き詰まったとき、教師やTA[vii]に助けを求めることができる。

ただ、会話パートナープログラム開設当初、会話合同クラスに参加しながら会話パートナーとして活動している日本人学生の割合は90%ほどだったのが、プログラムが広がりを見せるに連れて、現在では70%ぐらいになっている。また、会話パートナーとして自己の責任で全く個人的に活動することに不安を覚える日本人学生もいる。

こうした状況に対する対策として、2000年10月から会話パートナーのためのメーリングリストを開設した。また、会話パートナーのための『会話素材集(試用版)』を新たに作成し、10月から活動を始めた日本人学生に配付している。これは留学生との会話のトピックや異文化接触場面での注意事項等を冊子にしたものである。

メーリングリストは、会話パートナーである日本人学生同士の情報交換および知識・体

験共有の場として活用すること、また担当教官への質問・連絡等にも利用し、プログラムの活発化と円滑化を図ること、を目的としている。現在の登録者数は18名である。今後、メーリングリストが教師と日本人学生との連絡・質問のために利用されるだけでなく、日本人学生同士のネットワークを広げ相互に学習する場となることを期待としている。

4．日本人学生の反応と活動の効果

アンケート調査は1998年９月、1999年２月、2000年10月に会話パートナーとして活動している留学生と日本人学生に対して行った（資料１、ただし、日本人学生分のみ）。今回は日本人学生の回答結果（資料２）についてのみ、報告する。

「留学生の会話パートナーになったことを、今、どう思っていますか」という質問に対して、「どちらともいえない」に丸をつけた一人を除き、回答者全員が留学生の会話パートナーになったことを「なってよかった」と評価しており、また、ほとんどの学生が今後もパートナーとして活動を続けたいと答えている。パートナーをやめる学生も中にはいるが、理由としては実験や勉強がいそがしくなったというものが多い。また、アルバイトが忙しくなったという者もいる。[viii]

アンケート調査の結果から、日本人学生が留学生との活動から、異なる考えや意見に触れ、また自分自身の意見を求められて、他の文化に対する偏見や思い込み、ステレオタイプ化に気づいたり、自文化を見直したりして、視野を広げ、様々なことを学んでいる様子がうかがえる（資料２）。留学生とのコミュニケーションを通して、日本人の友人とのコミュニケーションスタイルが変わったと報告している学生もいる。

「私は結構自分勝手な人間だから、以前は、友達と話すとき、相手が自分の言っていることがちゃんとわかっているか、ちゃんと意志が伝わっているかとか、あまり考えないで話していたけれど、留学生と話すようになってから、そういうことを意識して、相手のことをもっと考えて話すようになった。」

5．まとめと今後の課題

質問紙の回答やE-mail、研究室を訪れる学生との会話のやり取りから、日本人学生にとって会話パートナープログラムが自己啓発の場になっていることが分かった。また、会話パートナーとしての活動が、母語としての日本語を異文化コミュニケーションの手段として捉え直す場ともなっているようである。

現在、継続的に会話合同クラスに参加しながら会話パートナーとしても活動している日本人学生の中には、留学生個人とのコミュニケーションが楽しめるようになり、単なる会話のパートナーではなく、留学生と友人関係を結んでいく者も出てきた。お互いの友人を紹介しあい、それぞれの活動の場を広げているようである。また少数ではあるが夏休み等

にパートナーの国を訪ねたり、お互いの家にホームステイをするケースも見られるようになった。

今後の課題としては、プログラムに参加したいが、勉強・研究が忙しく、定期的な活動ができないという学生が参加できるような場を設定することである。質問紙の回答にも、他のパートナーとも交流ができるような企画をして欲しいという要望があった。

それに関連して、現在、ここ2－3年継続的に会話パートナーとして活動している日本人学生が留学生のサポートと交流を目的としたサークルを立ち上げようとしており、筆者はその顧問を依頼されている。正式発足は来年の4月となるが、第1回の交流の試みとして、11月に長崎大学学生会館の一室を借りて、留学生と日本人学生によるポットラックパーティーを行った。12月に2回目を開く予定である。

また、メーリングリストについて言えば、学生全員がアドレスの取得はできるものの、現在利用者数に見合ったコンピュータの台数が確保されていない状況で、携帯電話で電子メールを利用している日本人学生が圧倒的に多い。携帯電話の場合は文字数がかなり制限されるので、メーリングリストのアドレスとしては不向きである。メーリングリストに参加しにくい学生に対するなんらかの対策を考えていく必要がある。

以上がこのプログラムの現状であるが、今後も現在の活動に改善を加え、他のプログラムとの連携を図りながら、留学生と日本人学生の双方向学習の場の拡大をはかると同時に、両者の関係を深めていくためのサポート体制を整えていきたい。

最後に、このプログラムを維持していくためには、かなりの時間と労力を要するが、日本人学生の募集や留学生との接触に慣れない日本人学生の相談相手となり筆者をサポートしてくれたTAの平木美千代さん、柳井知子さんにお礼を申し上げたい。

注

i　日本語研修コースは大使館推薦の国費研究留学生と教員研修留学生を対象としたコースであるが、長崎大学ではすべてのクラスに出席できる者であれば、大学推薦の留学生や私費留学生も受け入れている。

ii　大使館推薦国費研究留学生および教員研修留学生は、来日後6ヶ月間は留学生センターの所属となる。

iii　国立大学ではチューターの配置が制度化されており、学部留学生には入学後2年間、大学院生には1年間自動的にチューターが配置される。チューターには謝金が支払われる。ただし、留学生センターに所属する6ヶ月間はチューターはつかない。

iv　長崎大学の日本語研修コースは1996年10月に開講した。会話合同クラスは1996年度秋期期間中に企画・アレンジし、1997年度春期に開設した。合同クラスに関しては、松本（1999）で詳しく報告した。

v　筆者は1999年度後期に全学教育の外国語関連科目の一つとして学部1年生の日本人学

生を対象に「異文化コミュニケーション」というタイトルで授業を行ったが、そこでも留学生と交流を持ちたいと思いつつ機会をつかめないでいる学生が多数いることがわかった。

vi　日本人学生は英語の話せる留学生と英会話の練習はしたいが、それ以外の留学生との関係は持ちたくないと思っている留学生もかなりいるようである。

vii　会話合同クラスには二人のTA（ティーチングアシスタント）がいる。現在のTAは二人とも教育学部の大学院生である。クラスでの活動だけでなく、会話パートナーとしても活動している。

viii　長崎大学は8学部からなっており、文系の学部としては教育学部・経済学部の2学部のみであり、文系と理系の統合学部として環境科学部があるが、あとは医学部・歯学部・薬学部・工学部・水産学部で、理系中心の大学である。また、キャンパスが三つに別れている。

以下に会話パートナーが続けられないと回答した例を挙げる。

・　時間的、(精神的に) 余裕がなくなってしまったから。後期に入って、授業も入り、火曜日が使えず、他の曜日は医学部の方なので、文教キャンパスまでなかなか行けない。またアルバイトが増えたため。たいへん申し分けないのですが、つづけられません。

・　後期はさらに自分が忙しくなりそうで、会話パートナーに迷惑をかけそうだから。でも、機会があったら（来年でも）また参加したい！

参考文献

江淵一公（1991）「在日留学生と異文化間教育-研究の視角と課題」『異文化間教育』 No. 5 pp.4-20

春原憲一郎（1992）「ネットワーキング・ストラテジー－交流の戦略に関する基礎研究」『日本語学』　Vol.11 No.11　明治書院　pp.17-25

松下達彦（1998）「日本語教員主導型ボランティア・チューター/クラス・ゲスト統合運用システム」『平成10年度日本語教育学会秋期大会予稿集』　p.229

松本久美子（1999）「留学生と日本人学生の初級会話合同クラス-双方向学習による異文化コミュニケーション能力の育成-」『長崎大学留学生センター紀要』第7号　pp.77-96

守山恵子・永井智香子・松本久美子（2000）「留学生の求めていること-研修コース修了生インタビュー調査報告-」『長崎大学留学生センター紀要』第8号　pp.1-30

三宅政子（1999）「パートナーシッププログラム：一つの試み」『名古屋大学留学生センターニュース』第10号　pp. 1 - 2

横田雅弘（1991）「留学生と日本人学生の親密化に関する研究」『異文化間教育』 No. 5 pp.81-97

資料1．日本人学生へのアンケート（2000年10月実施分）

留学生の会話パートナーの経験がある方へのアンケート

2000年10月

あなたの所属及び学年：

パートナーの留学生の名前：

1．どうして留学生の会話パートナーに興味を持ちましたか。

2．いつからいつまで留学生の会話パートナーをしましたか。

　　年　　月から　　年　　月まで　or　現在も活動中

3．一週間に何回ぐらい、留学生に会いましたか。(会っていますか。＊以下同じ)

　　回

4．１回に使った時間は、だいたいどのぐらいでしたか。

　　時間

5．どうやって、留学生と連絡をとっていますか。(電話、e-mail 等)

6．どこで会話（活動）をしましたか。場所はいつも同じところでしたか。

7．会話の形式は？

　a．あなた　－　留学生（１名）

　b．あなた　－　留学生〔２名）

　c．あなた＋他の日本人会話パートナー　－　留学生（１名）

　d．あなた＋他の日本人会話パートナー　－　留学生（２名）

　e．その他

8．留学生との意志疎通のために、日本語以外の言語（例えば英語）をどのぐらい使いましたか。また、どんなときに使いましたか。

9．留学生に会えない/会わないことにした週がありましたか。

a．なかった

b．あった　〈どんな時ですか〉　→

10. 日本語の会話の練習のほかに、何かしたことがありますか。該当するものに丸をして、その内容についても書いてください。

a.日本語力の向上のための援助：例えば宿題の手伝い、文法の説明等

〈どんなことですか〉　→

b.専門分野についての援助　〈どんなことですか〉　→

c.事務的な事柄についての援助：たとえばホームステイの申請書の記入

〈どんなことですか〉　→

d.日常生活のための基本的な情報提供　〈どんなことですか〉　→

e.対人関係上の援助：例えば自分の友人を紹介した等

〈どんなことですか〉　→

f.その他　〈どんなことですか〉　→

11. 留学生に何か手伝ってもらったことがありますか。

a.ない

b.ある　〈どんなことですか〉　→

12. 会話パートナーとして、これまでに何か困ったこと、悩んだことがありますか。

a.ない

b.ある　〈どんなことですか〉　→

13. 困ったり、悩んだりしたとき、どうしましたか。

a.自分一人で解決した

b.留学生センターの教官に相談した

c.他の会話パートナーに相談した

d.その他

14. 会話パートナーをやめたいと思ったことがありますか。

a.ない

b.ある　〈どんな時、なぜそう思いましたか〉　→

15. 会話パートナーになったことを今、どう思っていますか。a.b.cのどれかに丸をつけて、どうしてそう思うか、その理由も書いてください。

a.なってよかった。

b.ならない方がよかった

c.どちらとも言えない

どうしてそう思いますか　→

16. これからも会話パートナーを続けたいと思いますか。a.b.のどちらかに丸をつけて、どうしてそう思うか、その理由も書いてください。

a.はい　　b.いいえ

どうしてそう思いますか　→

17. 留学生との会話の中でどんなことが興味深い/おもしろいと思いましたか。会話パートナーを続ける中で、相手や自分自身について、何か発見・気づきがありましたか。お互いの関係のありかたに何か変化がありましたか。自分自身の行動や考え方に何か変化がありましたか。何でも自由に書いてください。(例を挙げて、具体的に書いてもらえると大変参考になります。)

18. 留学生センターではこれからも会話パートナーを募集し、このシステムをもっとよくしていきたいと思っています。何かアドバイスや意見などがあったら、何でもいいですから、書いてください。

以上
ご協力どうもありがとうございました。(松本)

資料2. 日本人学生へのアンケート結果(抜粋)

1. どうして留学生の会話パートナーに興味を持ちましたか。

- 自分自身、とても言語に興味があって、あらゆる国の人達と話してみたいと思っていた。会話パートナーになれば、その人の国についても知ることができると思ったから。
- 外国の人と友達になって、いろんな話を聞いてみたかったし、日本語を教えるということに興味があったから。
- 普通は留学生と会話する機会がないので、いい機会だと思ったので。
- 外国人と話してみたかった。英語を話してみたかった。留学生の役に立ちたかった。
- 同年代の友達ができるといいなと思ったから。知らない国についていろいろと話をきくことができるとおもしろいと思ったから。
- 留学経験から留学生の助けをしたいと思ったからです。
- 日本人以外の人と友達になっていろいろな事について話をしたかったので。また、

なにか自分に出来る事があれば、協力したかったからです。いつか自分も同じ立場になったときのために。

・　外国の文化に興味があったから。また、以前友人が会話パートナーに参加していて、楽しそうだったから。

・　自分でもなぜだかわかりませんが、外国の人と話してみたいという気持ちがあるので、これはとてもいいチャンスだと思います。長大受験前にもらった案内には、クロスカルチャーコースのところに、「異なった価値観を持った人びととのコミュニケーションを通して、国際的な文化理解に貢献できる人材の育成を行う」とかいてあったので、留学生の人たちと交流する機会が与えてもらえるのかと思っていましたが、実際はそういう機会は自分で作るしかないということがわかりました。国際的な文化理解に貢献できる人材にはなれなくても、いろいろ勉強になることがあると思います。

・　小さいころ、通訳になりたいと思っていました。大学に入ったときは、その夢はほぼ忘れていたけど、でも、もとから外国の人とお話してみたいと思っていたからだと思います。それに、大学生活がなんだかおもしろくなくって何か見つけたいと思っていたときに、「学園だより」で、偶然「会話パートナー」を見つけたんです。「これしかない」って感じでした。

12. 会話パートナーとして、これまでに何か困ったこと、悩んだことがありますか。

b．ある〈どんなことですか〉

・　本当に自分との会話が役に立っているのか、という時期もありました。

・　会話パートナーといっても、何を話していいか分からなくなることがあった。話題の少ない自分が、ちょっと情けなくなった。

・　自分がしている会話で、留学生の人に本当に役に立っているのかどうかよく終わるたびに思った。

15. 会話パートナーになったことを今、どう思っていますか。

a．なってよかった

・　パートナーの母国の文化・歴史など、いろいろ教えてもらいおもしろかった。やはり本を読むより、現地の人の話を聞くことができ、文化の違いや、けっこう日本と似ているんだと肌で感じることができた。また、日本語を教えるのは難しいとつくづく思った。でも、いい経験になった。

・　彼と話をしていて、彼の国のことなどいろいろ知った。宗教や食文化など日本とはとても違うことが多かった。ふだん、外国の人と話をすることはなかったので、自分にとってすごくいい経験になったと思う。

・　最初に比べて、パートナーの相手もすらすらしゃべれるようになった。授業が主だ

が、会話パートナーとの会話も役に立っていると思ったからです。

- 英語が片言しかしゃべれないということがとても不安だったが、何とかやり通せたことで少し自身が持てたから。また、パートナーの国のことや、家族のこと、お金の価値観や仕事観などについてもいろいろ知ることができて、とてもおもしろかったし、ためになった。
- 同世代。同じような価値観をもつ友人ができた。ストレス発散に大変良い。
- 友達になれて、色々な話（大抵は世間話）ができて、とても楽しい。
- 友達ができた！　一緒に話をしていて楽しかった！　色々なことが知れた！　その人自身のこともその人の国のことも...今まで考えたこともなかった日本語のことも考えるようになりました。練習のため、ということで相手だけに話をしてもらうのではなくて、あくまでもお互いの話をしていくことの大切さ、楽しさを知る事ができました。
- 日本に留学している留学生の人の気持ちがわかったし、違う面を見ることもできた。かつ友人が増えたから。
- 普通に友達になれたから。また、日本語の難しさや、それを説明する事の難しさを実感しました。
- 自分が日本人の人とだけ話していたら、知らなかったことも分かるから。
- 一緒にいて面白かったし、彼女の行動力は私の人生によい影響を与えたと思う。また以前より視野を広く持てるようにもなったのではないかと思う。自分の専門以外の人と話す機会が持てたのも良かった。
- まず、会話パートナーを通して、留学生と知り合ったことで、自分の考えと違う人と、コミュニケーションすることを学びました。私たちは比較的自分と仲が良い人とばかり、つきあう傾向があると思います。特に日本人はみんな日本人だから、同じ状況で同じ感情を抱くというふうに思っているところが強いです。しかし、自分とは全く考えも、とにかく何もかもが違う人と、さらに、多くの言葉やジェスチャーなど、手間がかかることを必要としながら、つきあうということは、結局留学生のためというより、自分のためになっていることが多いと思います。自分が、いかに自分の心や頭を、最大限に開放して、それを受け入れることができるのか。私たちは留学生に教えられていると思います。私が悩んでいるとき、いつもはげましてくれている多くの留学生に、本当に心からありがとうと言いたいです。

c．どちらとも言えない

- 私は、途中でやめる様な事になってしまい、かえってパートナーに迷惑をかけたようで、申し分けない。もっときちんとやるべきだった。少しでも役に立ちたいな・・・と思っていたのですが。アルバイトが忙しくなったりしたので。

16. これからも会話パートナーを続けたいと思いますか。

a．はい

・　いろいろな国から来た人達と話してみたい。

・　もっと仲良くなりたいし、たくさんの友人が欲しいので。

・　もっと色々な人と友達になりたい！新しい友達を通してもっといろんなことを知りたいからです。自分にできる範囲で違う国の人と交流ができるから。

・　今、会話パートナーというよりも、私にとって彼はとてもいい友人だと思うし、私の方が彼から学ぶことの方がとても多いから、これからも続けていきたい。

・　知り合いがまた１人増えるし。あと、最終的には留学生の日本語上達のために役立っていると思えるから。あと、彼らの（日本人じゃない人）話をきいて、いろいろ得るものとか、刺激をうけるものとかがあるから。

・　相手の人のためにもなっているし、自分のためにもなっているから。役に立っていると思うとうれしいし、私の方も、いろんなことを教えてもらえてとてもおもしろいと思う。

・　会話を続けることによって、自分自身にも、新たな発見があったし、毎回とても楽しみにしている。また、私自身英語を毎回少し使えることがとてもうれしい。また、パートナーの出身地やその国について、くわしく知ることができて、とてもおもしろい。いろいろな意味で新しい発見がある。

・　言葉の壁にむきあうことができました。観光旅行では壁があると引き返してきて一人だけの旅情を楽しむだけでしたが、今回壁にさわってみることができました。いい経験でした。

・　同世代。同じような価値観をもつ友人ができた。ストレス発散に大変良い。

・　バングラディッシュ通？に近付きつつある。何より話している時楽しい。

・　自分の勉強になるから。また、真剣にいろいろな話が出来るから。

17. 留学生との会話の中でどんなことが興味深い/おもしろいと思いましたか。何か発見がありましたか。なんでも自由に書いてください。

・　興味深いというか、２人の明るさ(？)見たいなもののおかげで、なんかホッとすることが多かった。日本語パートナーとして、というより、前期は解剖実習、テストと苦しいことが多かったので、医学部と全く関係ないところで話をできて、私の方がお世話になっていた。

・　日本語について、意外と難しかったり、考えもしなかった事などを疑問に思っている留学生のみなさんに気づかせられて新鮮だった。何より、一生懸命日本語を学んで、どんどん上手になっている留学生さんをみていて自分の勉強に対する姿勢と比べて恥ずかしい思いがした。人に説明することはとても難しいのだなぁということも実感し

た。20年も話している自分の言語でも、説明するとなると何といえばよいのかわからない時が多々あった。

- 向こうは、親をとても大切に扱うようだ。親から育ててもらったことを思えば、それが当然だと思うが、今の日本にはそういう考えは少数派だ。私はどう考えるかと聞かれて、とっさには答えきれなかった。今まで自分の身におきかえて考えたことがなかったからだ。ずーっと今まで自分はまだまだ子供、と思っていたけれど、働き出して、大人社会に入り込んだら、もっといろんな問題に目を向け、考えていかざるをえなくなっていくんだろうなぁ～と思うようになりました。
- 他の留学生とも何人か会いましたが、みんなとても個性的だと感じました。日頃、あまり自分を主張することがないので（自分自身の意見を求められることが少ないので)、留学生との出会いはとても新鮮でした。...はじめはとても文化の差があるに違いないと思っていましたが、実際には、それほどでもありませんでした。これからもずっと続けていけたらいいと思っています。
- パートナーはコンピューターが好きで、Computer is a futureとよく言っていました。僕はコンピューターが嫌いなんですが、僕もやってみようかという気になっています。
- 自分自身変わったこと。以前は、外国の人と聞くと、いわゆる白人さんが、浮かんできてました。今は、すぐ、アジア・アフリカの人が浮かびます。時々、鏡を見て、自分の肌が黒くないのを見て、びっくりすることもあります。ははは。世界のニュースに興味を持つようになったこと。いろんな違いを、違いとして、受け入れられるようになったこと。積極的になったこと。
- 私のパートナーは２人ともイスラム教徒なので、宗教に依る考え方の相違が興味深かったです。ちなみに私は無宗教で、強いて言えば昔ながらの八百万の神さまですね。
- 留学生が抱く日本の不思議さなど・・・また、日本語自体の不思議さや、理解しにくい点など・・・または、日本で面白いと感じることその人自身の考え方など、とても興味深く、面白かったです。
- 中国のひとは中国でも日本でも、親しくなったらとても親切で深い友情を育ててくれるということ。